

2021年3月期決算説明会 質疑応答要旨

Q：子会社の前澤リビング・ソリューションズ(株)の売上高、利益について教えてください。

A：2021年3月期は、売上高54億32百万円、経常利益1億1百万円でした。

Q：のれんの償却額は、どの程度か教えてください。

A：全体では395百万円です。10年間で償却しますので、1期あたり、39百万円程度になります。

Q：少し利益はプラスだったという感じでしょうか。

A：初年度のイニシャルコストがかかっておりますので、2021年3月期については少し費用が高んでおります。

Q：当期の計画の売上高のイメージをお伺いしたい。2021年3月期は、2020年3月期の価格改定前の駆け込み需要の反動を受けた部分や、2021年3月期の新設住宅着工戸数のマイナスの影響もあったと思います。2022年3月期は、凹んだ部分の戻りが期待できると思うが、その辺りはどう見えていますか。

A：2019年4月の価格改定による駆け込み需要は、2019年3月期の後半辺りから、いつもとは異なる受注が入っており、2020年の上半期ぐらいまで続いておりました。価格改定は2019年4月に、一斉に行ったわけではなく、各地域の取引先様へご説明しながら、ある程度の期間をかけながら実施させていただきました。2020年3月期の下期あたりから、平常どおりに戻ってきておりましたので、価格改定に伴う影響は、昨対比較ですと2021年3月期の上半期あたりまでは反動減という形で影響を受けておりました。当期につきましては、価格改定は一巡しましたので、反動減の影響はないと考えております。

Q：銅価格の高騰はありますが、前回価格改定を行った製品は浸透していますので、収益性はもう少し上がってもいいのかと思いますが、いかがでしょうか。

A：給水装置事業の収益性につきましては、着実に改善されており、単月比較での売上総利益率は上昇しております。一方で、全体の収益につきましては、2021年3月期は、新型コロナウイルスの影響で新設住宅着工戸数も減少するなど、様々な要因も重なり、減収となりましたので、その事が起因して減益となりました。2022年3月期につきましては、銅価格の上昇をコスト増として織り込み減益予想としております。

Q : 設備投資の内訳を、教えてください。

A : 全体では 780 百万円程度計画しており、昨年対比では、450 百万円程度の増加となります。主な内訳ですが、金型は 260 百万円、基幹システム・サーバーの更新 240 百万円、生産設備の更新 190 百万円になります。生産設備は主に NC 旋盤の更新が中心となります。

Q : 2022 年 3 月期の計画は、他の年と比べ多い印象だが、前年度に計画していたものが、先送りになったのですか。それともスケジュールどおりなのでしょうか。

A : 基幹システム・サーバーの更新は、先ほどご説明した前澤リビング・ソリューションズ(株)関連のものが一部含まれておりますし、生産システムの更新もあります。これらは、長いスパンでスケジュールリングされたものですので、前年度の繰り越しといったものではありません。

Q : 総還元性向の目安や考え方など教えてほしい。

A : 配当につきましては、安定的な配当を行う考えとしております。PBR も 1 倍を割っており、割安な状況にあることから、配当に加えて、自己株式の取得も並行して実施しております。公表はしておりませんが一定の目線をもちながら実施しております。

Q : 総還元で何%になるようにと言うよりは、株価を見ないで実施していくという考え方でしょうか。

A : 株価というよりも、一定の総還元性向に達するように努力しております。ただ、どうしても期末近くになって着地が図りづらい面や、期間内での一定の比率を目指しておりますので、一定のブレが生じてしまう面はあります。

以上